Osaka University Knowledge Archive

Title	乳ガン
Author(s)	中野, 陽典
Citation	癌と人. 1976, 4, p. 19-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24242
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

5．乳　ガ　ン

中　野　陽　典*

5—1．乳ガンは増えている

日本女性のガンの死亡率をみると，胃ガン，子宮ガン，肝ぞうガン，乳ガンの順で，乳ガンによる死亡率は，比較的低いとされてきました。英国や米国では，逆に乳ガンによる死亡率が，女性ガンの中で第1位になっています。しかし，最近になって生活の欧米化の傾向とともに，間違いなく増えてきています。昭和48年には，3000人の女性が乳ガンで死んでいます。比較的日本女性に多かった子宮ガンによる死亡率が，低下の傾向を示しているため，近い将来，乳ガンと逆転するであろうと，ある疫学者は推論しているほどです。

すなわち，日本女性にとって乳ガンは重大な敵となってきたわけです。実際，私達の行っている乳ガンの集団検診では，1000人に1人～2人の乳ガン患者が見つかっています。

5—2．乳ガンは，予防できるか

食事との関係，初潮，結婚，妊娠，授乳，そして遺伝的なことなど，その因果関係がいろいろ調べられ，ある程度の乳ガンにかかりやすい状況が，報告されたりしています。しかしながら，いま一つきめ手がなく，予防法はこれだと言えるものは，まだありません。

予防法に確実なものがないならば，乳ガンは，どうすれば克服できるでしょうか。現時点では，早期発見，早期治療以外に良い方法はないと断言できるでしょう。では，そのためにはどうすることが必要でしょうか。まず乳ガンを早期に見つけるための一般女性として必要な乳ガンの知識を身につけ，それにもとづいて，自己検診を行うことが，いちばんよいようです。

5—3．乳ガンとは

乳ガンについて知っておくべきことは何でしょうか。むつかしいことではありません。要するに，乳ガンはどのようなかたちで，でてくるかを知ることであります。女性も30才をすぎると，次第に乳ガンの好発年令になってきます。乳ガン初発のいちばん多い症状は，乳房の中に異常なしこりができることであります。まず，指の腹でふれるようなしこりは，すべて異常と考えて専門医を受診する必要がありましょう。乳首から，かっ色，黒色の液，あるいは血液等がでた場合には，ガンの場合がありますから，いち早く専門医にみてもらわねばなりません。その他，乳房のかたちがかわったり，乳房の皮膚に凹みができたりすれば，これもまたすぐ専門医にいく必要があります。

5—4．自己検診と集団検診

では，このような異常は，どうすれば早くみつかるでしょうか。30才をこえた女性は，毎月1回自己検診をやりましょう。毎月，月経終了後1週頃に，月経のない人は日を定めて，なるべく大きな鏡の前にたちましょう。自分の乳房のかたちをおぼえましょう。これが後々乳房に変化がおこったときの基準になります。両腕を上げ下げしましょう。乳房のかたちがおかしくなりませんか。ひきつれたりしませんか。乳房の皮膚に凹みはできませんか。

つぎに仰向に寝て下さい。手指の腹で自分の乳房を左右とも，外側，内側，上，下と入念に，かるく力を入れておさえてみましょう。ごろごろとしたかたまり，くるっとしたかたまり，何だか変な索状物，おさえている間に乳首から出てきた分秘物等，すべておかしいと思えば，す

* 大阪大学助手（微生物病研究所附属病院外科）

ぐに専門医にいって診断をあおぎましょう。これで一応早期発見に役立つのですが，さらに最近は，あっちこっちで乳ガンの集団検診が行われるようになってきました。こういう機会は積極的につかまえましょう。

5—5. 専門病院では

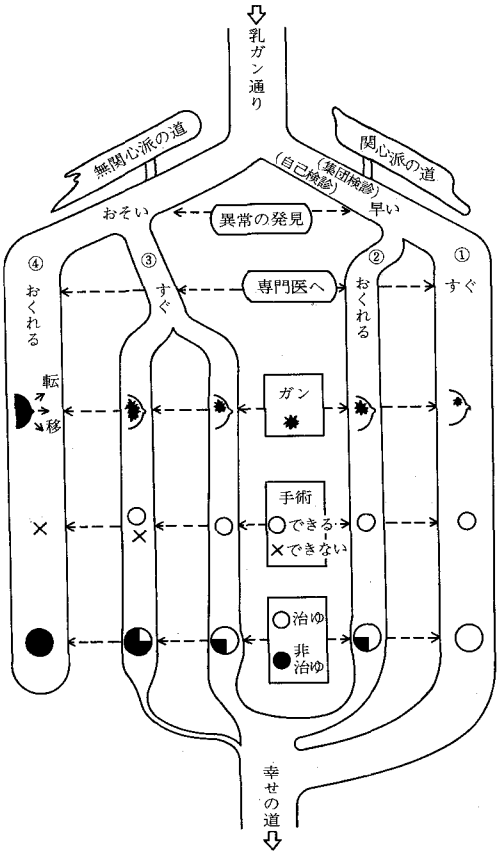
専門医は，どのようにして検査するのか，これは知らなくてもよいのですが，一応お話ししてみましょう。まずは問診です。乳ガンの診断には大切です。必要なことは，つつみかくさず言いましょう。つづいて触診です。専門医は，これはあやしいぞとか，まず大丈夫だろうとか判断しますが，それだけでは不十分で限界があります。補助診断が必要です。最近非常に進歩普及したのが，乳房のレントゲン撮影です。サーモグラフィーといって乳房の皮膚温の差から判断する方法。超音波を使う方法。直接乳房の異常な塊から細胞をとってしらべる穿刺吸引細胞診。手術的に組織をとってしらべる方法などがあります。

治療法はどうするのか，これもお話ししましょう。手術が一番，と言うよりも手術が，どうしても不可能であるという事情がない限り，手術しなければならないと言えるでしょう。残念ながら手術すると乳房がなくなり美容的には，はなはだよろしくないと言うことになります。しかし，日常の仕事は訓練によりほとんど不自由なくやれるようになります。テニスＯＫ，ゴルフＯＫ，水泳ＯＫ，バレーもバレーボールもＯＫです。かたちもいまではいろいろ代用品が工夫されています。不幸にして乳ガンになっても，早期にみつけ勇気をだして手術を受ければ，何の心配もいりません。貴女の健康な生活が保障されます。

5—6. 乳ガンはこわくない

このように乳ガンは自分で早期発見でき，そしてよく治るガンです。乳ガンで命をおとすことは，女性として誠に残念なことです。

最後に乳ガン関心派（自己検診派）の女性と，無関心派の女性について，乳ガンになった場合にたどるであろうと思われる道を図にしてみました。



関心派（自己検診派）の女性は，自分の乳房に異常があれば早くみつけます。このような場合には，ごく一部の女性をのぞいて図の①の道を通ります。すぐ専門医に行きガンかどうか診断を受けるでしょう。ガンでも早期，すなわち手術によって治癒するわけです。

専門医にいくことを，ちゅうちょした一部の女性も，つねに症状を気にしているから，図の②の道を通り，やがて専門医にいくでしょう。ガンは，まだそれほど進行していない場合が多く，手術すればよく治癒する場合が多いようです。

無関心派の女性は，おおむね自分の乳房の異常に気がつかないで，だれでもわかる進行した状態になってからあわてます。また早く気がついても，たいしたことはないだろうと思い，専門医へ行くのがえてしておくれがちになります。多くは図の④の道を通ります。すなわちいよいよ進行してから専門医へ，あちこちガンが転移

して手術もできない状態です。残念ながら悲惨な結果となります。

平常，無関心派の女性でも気がついてからすぐに専門医をたずねた人は図の③の道を通ります。まだまだ早期のこともあり，こんなときは手術で治癒するでしょう。しかしガンが，わりに進んでいることが多く手術しても再発の心配の残る人もでるでしょう。みつけた時にガンがかなり進行していた人は，手術しても再発してくることが多いようです。

さあ，今日から乳ガンに関心をもって，万が一不幸にして乳ガンになっても，できるだけ早くみつけ，勇気をだして手術を受け，不幸な道から再び幸福の道へ入っていきましょう。

5—7. あとがき

これをよんで，自分は乳ガンになるのだと思わないで下さい。乳ガンにならない人の方がはるかに多いのですから。自己検診で乳ガンでないことを毎月確認して下さればいいのです。